彗星だより

既報の如く、今年は去る一月十二日Wバーデ氏が本年最初の彗星發見者として、タトル彗星を發見し、次いで同一月十六日に南アフリカのブラスエイト氏が新彗星を發見した。此の二星は年初の天界を賑はしたが、何れも距離が遠くなつて、程なく觀測が不可能となり彗星界は暫らく寂れた。ところが近頃になつて、又々、新しい發見を報ぜられることとなつた。

コブ彗星—— 此の星が今年初めに近日點を通過する筈であることは本誌第61號第79頁にも記した所であるが地球からの距離が遠いので發見される見込みは少ないと思はれた。しかるに、流石に此の道の熟練家であるマクス・チルフ (Max Wolf) 氏は、例のハイデルベルヒ天文臺の强力なる寫眞機により、去る七月十三日1時5,2分(萬國時)に、

赤經 $1^h17^m12^s$　赤緯(北)18°14′

の所に此の彗星を發見したといふ通知が最近届いた。光度は16等である。之れで見ると今年度の近日點通過は一月27.15日となる。しかし上記の樣な微光星であるから、世界最强力の反射鏡寫眞によらなければ此の星は觀測出來ない。—— 此の星は卽ち 1926c と呼ばれる筈である。

フインレイ彗星—— 此の星も亦今年中に近日點を通過する筈であり、其の日附は六月末らしいから、發見は非常に困難ではあるまいといふやうなことを本誌第61號第80頁に記した。大英天文協會 (British Astronomical Association) の年報 (Handbook) にも、此の星の近日點通過を六月二十三日として位置豫報を公表してゐる。しかるに、去る六月、東京の神田氏よりの通知によれば、蓮沼左千男氏は此の星の第四回出現の時(京都の佐々木哲夫氏が發見した時)の諸所の天文臺での觀測、卽ち

1919年11月13日		佛國ベサンソンで
同 12月 19日	米國ワシントン及びヤーキーズで、	
同 同 20日		
同 同 22日		
1920年3月8日	獨國ベルゲドルフで	
同 同 9日		

の觀測を材料として新たに此の星の軌道を算出し、尙ほ神田氏は1920年一月17日から1926年六月十五日までの間に此の星が木星から受けた攝動を計算して、今年度の最も眞に近い軌道を得た。(此の事は本會プレテン第77號に記して既に內外に通知した。)蓮沼氏の軌道要素は、(1919年の春分點に據れば)

近日點通過	1919年十月15日48261 (グリニチ時)
近日點の引數	318° 8′ 54″2
昇交點の黃經	46 55 39.8
軌道面の傾斜角	3 23 43.8
離心角	45 38 14.1
每日の平均運動角	530.″0868

であつて、神田氏が計算した本年度の軌道は1926年6月15.0日(萬國時)の時に於いて、

平均の進度(M)	352° 20.′4
近日點の引數	320 34.8
昇交點の黃經	45 18.0
軌道面の傾斜角	3 26.0
離心角	44 57.0
每日の平均運動角	518.″41
公轉週期	6.年8445
近日點通過の日は	1920年8月7.2日 (萬國時)

神田氏は之れを基礎として六，七，八の三ケ月間の位置豫報を發表し、觀測家の奮起を促した。(プレテン第77號)

しかるに、去る八月四日の我が諸新聞は、ナウエン無線報として、たゞ漠然と「フインレイ彗星がドイツで觀測されてゐる」ことを報じ、ついで、翌日、吾人はコペンハーゲンの天文電報中央局からの公報を得た。其れによると、此の彗星はハンブルグのベルゲドルフ天文臺のシトベ (Stobbe) 氏が去る八月三日に發見したものであつて、其の發見位置はうし座で、

赤經 $4^h3^m48^s$　赤緯 17°48′(北)

であり、光度は 11.5級である。之れによつて見るに、近日點の通過は本年 8月7.9日らしく卽ち神田氏の豫報は一日以內に於て適中してゐることとなる。之れは神田氏のために祝すべきことである。

自分は、去る八月の中旬、鳥取縣浦富海岸に出張滯在中、中村要氏等と共に此のフインレイ彗星を見た。光度は可なり淡く、約十級であつた。

——此の星は故佐々木哲夫君が第四回出現期に、1919年10月25日に發見したもので、實に我が國最初の彗星發見記錄であつた。——今年は之れが1929d彗星である。(山本)